

トマトキバガ

(学名 : *Tuta absoluta*、英名 : Tomato leaf miner)

1. 特徴

体長約5～7ミリの微小な蛾で、南米大陸が原産。1980年代からトマト等のナス科作物に大きな被害を与えているが、2006年スペインに発生が確認されたのを皮切りに、地中海沿岸や中東で急速に分布を拡大している。特に降雨量が少ない場合は被害が大きく、50～100%減収した例もある。

幼虫が頂芽、葉、茎、花及び果実を食害する。食害を受けた葉及び果実の表面に不規則な形状の食害痕を残し、黒い糞粒が見られる場合がある。

2. 寄主植物

インゲンマメ、キバチタバコ、シマホオズキ、シロバナヨウシュチョウセンアサガオ、トウガラシ、トマト、クコ属植物及びナス属植物の生茎葉並びにトマトの生果実。

3. 発生地域

ア ジ ア : インド

中 東 : アラブ首長国連邦、イエメン、イスラエル、イラク、イラン、カタール、サウジアラビア、シリア、トルコ、ヨルダン

ヨ ー ロ ッ パ : アルバニア、イタリア、英国、英領チャンネル諸島、オランダ、キプロス、ギリシャ、クロアチア、コソボ、スイス、スペイン、スロベニア、セルビア、ハンガリー、フランス、ブルガリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ポルトガル、マルタ、モンテネグロ、リトアニア、ルーマニア、ロシア

ア フ リ カ : アルジェリア、エチオピア、カナリア諸島、ケニア、スーダン、セネガル、チュニジア、ニジェール、南スーダン、モロッコ、リビア

中 南 米 : アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、コスタリカ、コロンビア、チリ、パナマ、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア



トマト果実の食害痕



トマト葉の食害痕



幼虫



成虫

(2017年 12 月)